

## 学校法人および各種学校設置認可の取得へ

2010年12月17日に開かれた大阪府私立学校審議会12月定例会において、学校法人コリア国際学園の設立およびコリア国際学園（各種学校）の設置について審議され、認可適当と認められました。これにより、本学園は2011年4月から正式に学校法人および各種学校設置認可を取得することになります。

また本学園は、国連のユネスコ憲章を学校現場で具現化するための国際教育ネットワークであるユネスコスクールにも加盟申請を行いました。「境界をまたぐ越境人」の育成に向けた環境整備の現況についてレポートします。



### ◆学校法人、各種学校とは

日本の「学校制度」種別の概要は、①学校教育法第1条に基づく学校（いわゆる「1条校」）としての幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校、②「1条校」以外の教育施設で職業もしくはは実生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的とする「専修学校」、③上記の「1条校」と「専修学校」以外のもので学校教育に類する教育を行う「各種学校」に分けられます。2008年4月に開校した本学園は、これまで特定非営利活動法人コリア国際教育振興会が設置主体として運営されてきましたので、学校教育法上の位置付けでは「学校」ではなく、「民間教育施設（私塾）」として扱われてきました。また、学校教育法では、学校は国、地方公共団体及び私立学校法第3条に規定する学校法人のみが、これを設置することができるとなっています。国立学校とは、国の設置する学校を、公立学校とは、地方公共団体の設置する学校を、私立学校とは、学校法人の設置する学校のことを言います。各種学校の設置と設置主体となる学校法人の設立は、都道府県知事の認可が必要となっており、知事は私立学校にお

る教育水準と学校法人の経営基盤の安定性の両面について審査することになっています。その場合、私立学校審議会の意見を聞くこととされています。2010年12月17日の大阪府私立学校審議会において審査が通過したことは、国の各種学校規定による学校の施設や教員に関する基準、大阪府の各種学校設置認可審査基準等を本学園がクリアしたことを意味します。

### ◆各種学校設置および学校法人設立の利点と義務

各種学校設置および学校法人設立にもなっており、今後さまざまな学校運営上の利点や義務が生じます。利点としては、JRなど通学定期券の学割購入や授業料の消費税非課税、直接教育等に供する固定資産についての固定資産税の非課税、各種学校教育振興費補助金など地方自治体からの教育助成、さらに各種のスポーツ大会への参加も認められることとなります。

日本の大学進学についても大きな変化があります。今年2月に第1期生の卒業生を輩出する本学園では、大学進学に際して高等学校卒業者と同等以上の学力を持った者の証明として文部科学省の「高等学校卒業程度認定試験」合格を在校生

に義務付けていました。各種学校の認可を取得したことで、「大学入学資格の弾力化」措置を謳った学校教育法施行規則（2003年9月19日公布・同日施行）により、各大学の「個別入学資格審査」を前提としながらも、原則的には大学受験資格を得ることができるようになります。

一方、義務としては大阪府への報告義務が生じます。収入・支出、生徒数などを毎年定期的に大阪府に報告しなければなりません。また当然のことですが、より高いコンプライアンスが求められることとは言うまでもありません。

### ◆ユネスコスクールに加盟申請

本学園は、2010年10月、ユネスコスクールへの加盟を日本ユネスコ国内委員会に申請しました。2011年中には加盟が認められる予定。ユネスコスクールとは、国連のユネスコ（国連教育科学文化機構）憲章の理念を学校現場に具現化するために発足した学校のことです。ユネスコスクールは、将来にわたる持続可能な社会の実現のために、環境、人権、平和などの諸課題をホリスティック（総合的・統合的）な視点から考え、立ち向か

い、解決するための学びである持続発展教育（ESD: Education for Sustainable Development）の推進拠点として位置付けられています。ユネスコスクールは現在、世界で約8500校を越え、日本国内でも200校を越えています。

本学園の建学の精神は「境界をまたぐ越境人」の育成にあります。越境人とは、環境や地域紛争など人類共通の諸課題を解決していくために、時空や属性や価値観などの違いや境界を越えてつながり合うことができる資質や能力を持ち、持続可能な社会の構築に向けて参加・行動する人間のこともあります。

本学園の理念は、ユネスコスクールの理念と重なっており、またユネスコスクールは国内外の幅広いネットワークや学びの機会が増えることになりました。加盟申請に先立つ2010年9月には、帝塚山学院大学元教授の米田伸次先生を講師に招き、ユネスコスクールに関する教員研修会も行いました。今後、KIS教育の特色である「教養・Liberal Arts」科授業などを軸にして、教育活動の充実を図っていく予定です。

### ■各種学校における制度の適用

項目		
国庫助成の有無		×
自治体助成の有無		△※1
税制関係	消費税非課税	○
	指定寄附金（受配者指定）	×
	特定公益増進法人	△※2
大学入学資格の有無		○※3
学校保健安全法		×
独立行政法人日本スポーツ振興センター法（災害共済給付）		×
JR通学定期券購入		○
学校給食法		×
学校体育大会参加		○

※1 地方自治体から助成を受けているものもある。  
 ※2 一定の条件を満たす外国人学校。 ※3 各大学の「個別入学資格審査」がある。



米国・ヨシダグループ会長 **吉田潤喜さん**

特別授業

自家製秘伝のヨシダソースで、アメリカンドリームを体験

# 波乱万丈の人生を生きて

米国でヨシダグループ18社を率いて世界中を飛び回る日々を送っている吉田潤喜会長。2010年11月11日、特別公開授業でKIPSを訪れた吉田会長は、生徒たちに向けて情熱的に語り始めました。その圧倒的な内容と語り口に生徒たちは大きな影響を受けました。ここでは、その一部をご紹介します。

## 4回も破産しかけた オッサンの話

今日の話は、ある人が成功した話をしようと思うねん。アメリカまで行って、4回も破産しかけたオッサンの話や。4回も破産しかけた人が、何で生きてこれたのか、何で世界中で受け入れられるようになったのか。理由は、簡単なんや。人との出会いなんや。場所は、日本、韓国、アメリカだろうが関係ない。たまたま僕の場合は、英語ができたので、世界中どこいっても恐くない。英語できたらな、どこにでも行ける。恐いものなしや。英語が、いかに大事なのかというのを痛感した。

僕がアメリカに渡ったのは19歳の時や。生まれは、京都の東九条で、7人兄弟の末っ子。「あなた、一番苦労した人ぢやいますか」と言われたりするけど、苦労するために生まれてきた人って、うちのオモニだと思ふ。僕は、小さい時から喧嘩ばかりしとった。今、こんな

優しいんやけど(笑)。当時、韓国中学校に通ったけど、4回停学になった。

喧嘩ばかりして、右目が見えない。僕が3歳の時に走り回っていたとき、オモニが使っていたチョゴリの針を僕の大好きな愛する姉さんが(笑)、僕の目の真ん中に入れたんや。小さい時は、「片目、片目」と言われた。その度、喧嘩した。喧嘩するから、仕方なく空手を習った。その空手が、のちにアメリカで役にたった。

生きていたら不幸は必ず起こる。そんな時、あなたはどうするかや。泣いたり、わめいたり、人を恨んだりするのか。人生はおもしろいもので、必ずあなたを邪魔する扉があるけど、そんなものを放っておくと、必ず違う扉が開くものだ。

## 本当に死に物狂いで夢を 追いかけたことがあるのか

アメリカのシアトルに着いて、帰りの飛行機のチケットを売って現金に換え、車を買って、そこで寝泊まりした。すると金がなくてガソリンが切れたんや。周りのみんなは、「あいつ、アホやなあ。何も考えずに動くから、失敗するのは当たり前やん」と言う。誰かが失敗しているのを見ているのは、楽しいもんなよ。僕の夢は死んでも日本へ帰らないって夢や。汗と血をダラダラ流しながら。



をしてしまった。アメリカでは、大体会社で潰れたり社員を首にするのは、金曜日なんや。社員たちに給料払えなくなつたから、残ったソースを持って帰れと言った。

## 人の車を押せない人は、 絶対にあなたの車を 押してくれない

会社で酒づけの日々を送った。家に帰るのが嫌やねん。義理の父は結婚に大反

対だった。僕のことを大嫌いやったからな。一人娘をどこの得体のしらない東洋人がもらったんやもん。僕のことを絶対に「潤喜」と呼んでくれなかつた。その日、金曜日の夜に、義理の父から電話がかかってきた。当時、無理やり結婚してこんな破産をかかえた男や。シアトルで明日お前と会いたいって。

会ったら義理の父が黙って静かに切り出したんや。16万ドルをいきなり、差し出したんや。初めて、そこで息子がよ、って言って渡してくれた。16万ドル

やで。ものすごい大金。ユナイテッド航空で今まで働いてきた退職金と貯めてきた全財産を、この僕を信じて借書もなく渡してくれたんや。何十年が過ぎて、親子の絆が生まれた日やったわ。自分の親でも全財産なんか預けないで。僕のパッションや思いを聞いてたんや。だから、こいつになら全財産あげても大丈夫だと思つたんやろな。

僕が、ここまでこれたのは自分の夢を信じてきたパッションがあったから。あなたたちが、いつか人のパッションに惚れこんで、この人のために車を押ししてみようと思つた人は、必ずあなたのために誰かが車を押ししてくれる。人の車を押せない人は、絶対にあなたの車を押ししてくれない。人のパッションのことを馬鹿にしている人は、あなたを絶対に助けてくれない。それが人生や。それがアメリカや。それが人間の世界や。もう一度言う、人のために車を押ししてみようと思つた人は、必ずあなたのために車を押ししてくれる。ありがとうございます。

(文責「越境人」編集部)

## Profile

よしだ・じゅんき ● 1949年、7人兄弟の末っ子として京都市東九条で在日コリアン2世として生まれる。米国にあこがれて19歳で単身渡米する。波乱万丈の米国生活をサバイブした末、自家製秘伝のたれをベースにしたヨシダソースを販売生産してアメリカンドリームの体現者となる。米国の中小企業局が選ぶ優良企業全米24社の中に、FedExやインテルなどと並んで「殿堂入り」を果たした。

は、100とゼロの違いや。何度も言う。本当に死に物狂いで夢を追いかけたことがあるのか。誰に文句言われようと誰に反対されようと、大事なのはどこで夢を見つめるかや。

商売はじめたころは、あまりに無知で商売が下手だったから空手の道場の運営資金に銀行から3万ドルの融資を受けたのに、それを横流してソースを作ったんや。その融資の返済を銀行から言われた。こういう時、プロの経営者は3万ドルどないして返そうかと、夜も眠れない電気を節約したり、トイレの紙も半分しか使つたらあかんとか究極の節約生活する。とりあえず出費を抑える。

僕は素人で経営をよく知らないから、3万ドル返さなあかんと思つたら、あとソース何本売らなあかんのやろうって考えた。3万ドルの返済には、あと1万本売らなあかんかった。その日から決意して、会社や部屋や道場のあちこちに1万本売るとい目標の紙を張った。とにかく1万本売らんや、という思いが自分の周りにグルグルまわった。そしたらね、何が起こったかという、さっきの車といつしよや。動けない車が動き出したんや。サンプルのソースを社員たちが、近所で売り始めて、お金にしてくれたんや。自分が死ぬほど動いていることは必ず誰かが見て、一緒に動かしてくれる。

2回目の会社の破産の危機の時も大変だった。人間調子の上り下り、崩れていく。ソースの売上以上に会社の宣伝



俳優 黒田福美さん

スペシャルトーク

# 韓国に魅せられて

日韓交流の架け橋として生きる

流暢な韓国語をあやつり、理知的な雰囲気と漂わせながら日韓交流の架け橋として活躍する俳優の黒田福美さん。第3回K・I・S文化祭(2010年11月6日)の特別講演のスペシャルゲストとしてお話ししていただいた内容を再録しました。

## 韓国に関わり四半世紀

私は韓国に関わり、もう四半世紀以上になります。本業は俳優ですが、韓国に関するテレビ番組のリポーターや企画制作などにも関わりました。写真展を開催したり、「ソウルの達人」というガイドブックを作ったりもしました。日韓の相互理解のためには、実際に人と人が触れ合い交流することが、一番の早道だと思いますからです。

1983年の暮にバレーボールの試合をテレビで観戦しておりまして、当時韓国の国民的スター選手であった姜萬守さんのプレーを見たことをきっかけに、隣の国があるのだと素朴に感じたのです。韓国は、こんな素晴らしい選手を生んだ国なのだと感じた瞬間から、これまで意識しつづけてきた韓国が突然バアッと膨れ上がったいくような実感をもったのです。

1984年当時の新聞の日韓意識調査では、日本人の韓国イメージは、焼肉、

キムチ、民族衣装が各8%で、第1位は無回答34%だったと記憶しています。そうしたお粗末な情報しかない時代でした。「在日」の人たちに対する差別や偏見が根強く残り、隣国の歴史や文化も知らずに、ただ慣習として韓国を見下しているだけではないのか、と思ったときに自分の中の正義感に火がつくような気持ちになりました。10%の視聴率があるテレビ番組では、観ている人は1千万人になりません。マスクミを通して、何か正しいメッセージを送ることができたら、世の中が変わっていくのではないかと思います。

## 日本人の責任は、日本社会を変えていくこと

でも、そう思った張本人の私自身もまったく実際の韓国を知らなかったのです。そこで84年に始まったNHKのハンゲル講座を聞きながら韓国語を勉強し始めました。当時は韓国語を勉強するのにNHKの講座しかありませんでした。ようやく少しずつ自分の意思を伝えることができるようになった1年後、自分の目で、肌で感じた韓国を日本に伝えていきたいと考えて、日韓間の往来を繰り返していました。

88年ソウルオリンピックが近づくと、日本でも韓国を報道する機運が出てきたのですが、日本の放送界では、誰も隣国を知りませんでした。いざオリンピックが開催されることになってはじめて、少

感じたのは、やはり文化の力というのはすごいな、ということでした。子どもが韓国に関心をもつのは、K・POPやドラマやスポーツでした。韓国の文化に関心を持つと、どんどんその領域は広まっています。そしてあとは、人と人との交流事業です。ホームステイとかで初めて韓国人の方と触れ合ったりしながら。

私は、これまでずっとソウルにはかりにこだわってきました。なぜならソウルには、韓国のすべてが凝縮されているからです。でも最近では、地方にこだわっています。こんなに日韓の関係が変わり、仲良くなってきたのも、やはり旅行の力がとても大きかったと思うからです。韓国では、一般の市民の方に旅行が自由化されたのも88年ごろでした。バブルがはじけた日本では、「近い、安い、うまい」韓国にどんどん目が向き始めました。魅力ある海外旅行の行き先として韓国が注目されるようになりました。

韓国人の人とはとにかく皆さん、おせっかいで親切です。道が分からなくて地図をひろげていると、どこに行くのだ、と人だけができて、連れて行ってくれたりします。韓国人の情に触れたりすることで、韓国人っておもしろい人たちだなあ、やさしい人たちだなあって分かっていきました。韓国人の人も日本人たちに対するイメージが変わっていったのです。ですから、今度は、そうした変化が地方にも起きてほしいなあと思いますね。



本人の考え方を変えていく活動をしていくべきなのだ、と思いました。その入り口として「歴史」から入るのは、あまり得策ではないと思ったわけです。むしろもっと「文化的なこと」、「楽しいこと」、「イメージの良いこと」、「美味しいこと」をたくさん情報提供して、どんどん触れ合ってもらい双方が理解しあえる方法で進めていこうと考えました。

## やはり文化の力は、すごい

先日、ある日韓の祭典の作文コンクールの選考委員を任されたのですが、私が

若い方たちや韓国を好きな方々が、地方に旅に行けば、そこで出会いがある。親切にされたとか、あの時、あんなふうな声をかけてもらったとか、そういった思い出は、その国のイメージを決めると思います。それは、一人ひとりの心に宿るもの。私はパッケージ旅行ではない、自分で企画し現地の人と触れ合える旅行をしてほしいなあと思います。韓国人たちは、本当にフレンドリーで、とてもユーモアがあり優しい。

私はコリア国際学園のような学校が本当に羨ましく思います。自分も、このような学校で勉強することができていれば、もっと大きな仕事ができるのではないかな。ここからたくさんの人材が輩出されたら良いなと思います。私たち大人の責任は、そして日本人として思うのが、ここで巣立った子どもたちが、どんなふうにも生きていけるような社会を築いていくことなのではないか、とあらためて思います。(文責「越境人」編集部)

## Profile

くるだ・ふくみ ● 俳優・エッセイスト。東京都出身。映画・テレビドラマなどで俳優として活躍。テレビコメンテーターや日韓関連のイベントにも数多く出演、講演活動なども活発におこなっている。韓国観光名誉広報大使なども務め、著書に『ソウルマイハート』『ソウルの達人 最新版』(講談社)などがある。韓国地方の魅力を紹介したDVD『Ryu・黒田福美が行く韓国四季の旅』も好評発売中。黒田福美ブログ <http://ameblo.jp/kuroda-fukumi/>